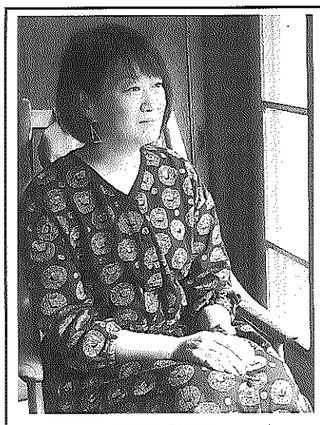
安行庭苑

〝昭和の家〟で「栗原由子展」

造園と日本画のつながりを



栗原由子さん

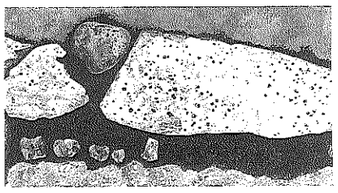
㈱安行庭苑（埼玉県川口市、安藤潔社長）は、10月17日～27日、昭和の家（東京都足立区）で、「栗原由子　日本画展―私の四季―」を開催した。

安藤潔社長が、安行造園時代から引き継ぎ、すでに15年間も手入れを請け負っている「昭和の家」の庭は、時代や住まい手の要望にあわせ、樹木に負担のかからない剪定やバランス保つことに留意しながら変化してきたという。現在「縁側カフェ」として親しまれているこの家は4年前に登録有形文化財として登録された。

今回縁あって、この昭和の家で、個展を開催することになった栗原由子さんは、グラフィックデザイナーであり日本画家でもある。日本画は福田平八郎氏に師事した。

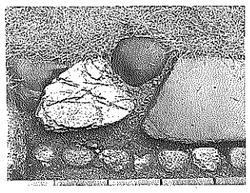
画題は植物、野菜、自然が多く、画家では福田平八郎氏の鋭い観察眼を基にした、例えば瓦に雨が落ちる瞬間の美しさを捉えるような表現に影響を受けているという。

小学校をシンガポール、中学校を千葉、高校をアメリカで過ごす。'94年、日本画コース入学。'99年、筑波大学修士課程芸術研究科日本画専攻。修士課程を終了後、都内でグラフィックデザイナー及び日本画家として活動。今回で4回目の個展開催となる。(yuko－kurihara・com)

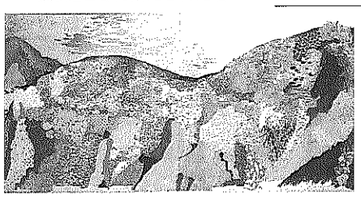


↑　下記の情景が描かれた

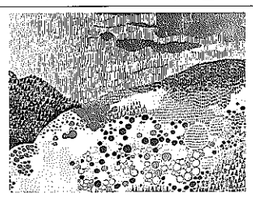
今回の個展では、開催場所となった「昭和の家」の庭から題材をとったものもあり、案内状にも印刷された〝Petrichor（ペトリコール）〟（雨が降った時に地面からあがってくる匂い）は、庭の端の部分リニューアルの時、偶然に掘り出された石で、その石に雨が降りかかった瞬間の匂いがテーマになっている。絵画と造園のコラボレーションは、思いもよらぬ方向から庭の楽しみ方を再発見させてくれる。そうした「やりとり」がお互いのイマジネーションを育てていくのかもしれない。



掘り起こされ据えられた石



大作「御岳」

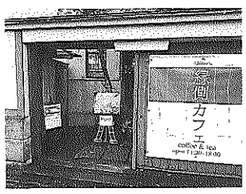


拡大：細やかな筆致で構成

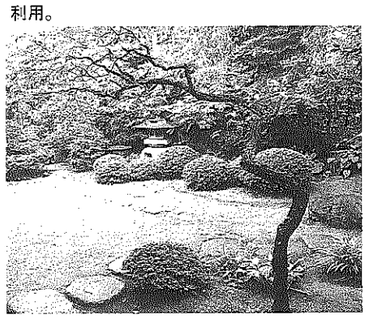
栗原さんの作品は精緻な観察眼で、拡大すると圧倒される細かな表現の積み重ねで構成されている。それは、小さな野菜から大きな山に至るまで同じだ。

安藤社長はまたこうした企画を続けたいという。

「昭和の家」は金属加工業・平田源七が昭和14年に建設した洋館付和風住宅。日本の手仕事や建築技術が随所に。平成25年6月、国の登録文化財。現在はカフェ、スタジオ等にも利用。



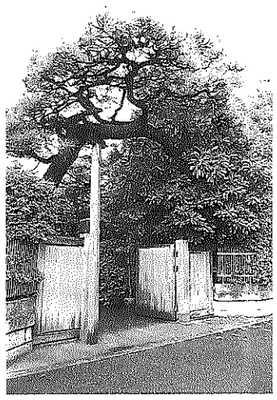
縁側カフェ入口



雪見灯籠、柿の枝ぶりも印象的な庭

庭を眺められるカフェ

（右から）安藤社長、三好さん、栗原さん、小林取締役、松本主幹顧問

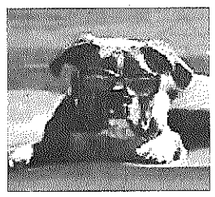


正面玄関の見事な門かぶりの松

愛犬と楽しむ「DOG POOL」

FRP製国産プール発売

パナシア



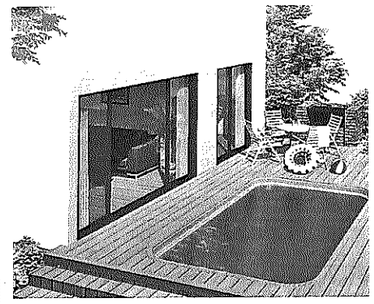
一体成形でコスト、工期短縮

㈲パナシア（大阪市、夏山鐘福、☎06・6626・4323）は、FRP製一体成型「DOG POOL（ドッグプール）」を発売する。

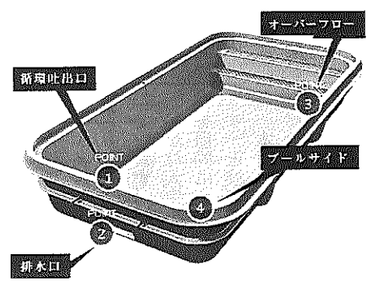
FRPは軽く、耐水性、対候性、耐熱性、保湿性等に優れ、水回り製品では、定評のある素材。一体成型のメリットとしては、工期（最短で1～2日）やコストを削減できること。

水深60㎝で犬と一緒に入ることができる。国産品であり、本体は5年保証。流通がオリジナル商材としての販売も可能。

概要：L4000×W2000×H600㎜、本体重量約150kg＋保有水量4・8t、オリジナルろ過システムで水交換は年1回、保温装置可能、ヘアーキャッチャー、ステップは標準装備。



犬用プールは水深60㎝



FRP製一体型、カラー9色

ギフトショー

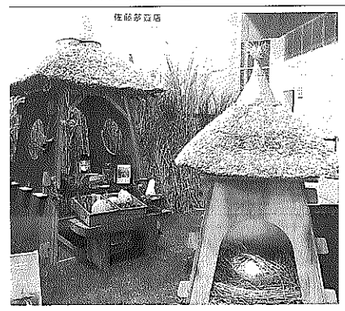
LIFE×DESIGN開催

茅葺屋根小屋、グランピング等出品

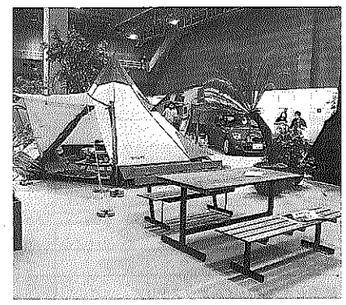
第1回東京インターナショナル・ギフト・ショーLIFE×DESIGNアワードが8月30日から9月1日まで東京・有明の東京ビッグサイトで開催された。これはすでに84回開催されているギフト・ショーの一環として新設された。出展者は300社、入場者は約5万人となった。テーマは〝暮らしデザイン新時代〟。

ユニークだったのは、かやぶき小屋（佐藤茅葺店・秋田）で、涼しい犬小屋や什器、様々な応用が考えられる。立地条件によるが5～10年は保つという。

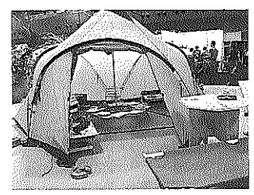
また、大きくスペースを割かれていたのは「グランピングコーナー」、キャンプライフ製品各種を展示。テントはもとより、自家用車に牽引されるキャンピングユニットが楽しい。のどかな木製ユニット（Tiny House Japan）、や小さいけれど機能的なユニット（TAXA JAPAN）等キャンピングカーを持っていなくてもアウトドアを楽しめる。渓流ユニットも（THE KEIRYU COMPANY）。



かやぶき屋根製品

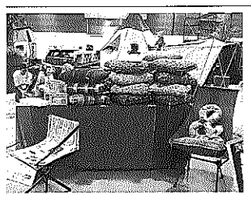


グランピングコーナー

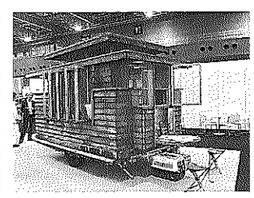


テント

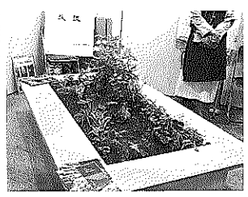
キャビンユニット



クッション類



木製キャンピングトレーラー



渓流ユニット

擬炎ライト